





## 父的な 見方・関わり ふまえつつ

動物園では様々な生き物の親子の姿を見ることができますが、同じような動物でも子育てのやり方はそれぞれ大きく異なっています。たとえばヒトにもっとも近いと思われるチンパンジーには父親的な役割はありません。一方同じサルでも南アメリカに生息するヨザルは子育てのほとんどをオスが担います。赤ちゃんを運んだり毛繕いをしたりするのは父親の仕事です。皇帝ペンギンもオスの役割は専業主夫であり、お母さんペンギンが餌をとりに行く間、一生懸命に卵を温めているのです。実際には、人間界以外にもイクメンは意外に多いようです。

では、我々ヒトはどうでしょうか。親の役割として、一般的には母親は保護的立場を取り、危ないことや冒険的なことから子どもを全面的に守るという本能的な部分があります。これに対して父親は社会性や規範を伝える、危険に対処する方法を教えるといった立場が要求されていると思います。以前に関連領域の講習を受けた際にも、母親の安全で温かい腕の中に長くいる子どもを、外界へと目を向けさせる役割が父親には不可欠だと教わりました。もちろん、母親の中にも父的な部分があり、父親にも母的な要素があるので、一人で子育てをされている方々も、自然に両方の役割をこなしている場合が多いようです。

結局、将来子どもが成長して親と、離れても困らないように、狭い世界でただ安全に子どもを守り続けるのではなく、広い世界に気付かせる、社会的に羽ばたかせるといった視点を持って、ちょっと距離を置いて見守る時間や機会も重要だということでしょう。ジャングルジムや登り棒などの高い所は危ないから止めさせるか、危険性が少なくなるまで教えながら練習させるか…転んだら痛いので転ばないようにずっと手をつないだままにいるか、大きなケガをしないように普段から歩き慣れておくか…失敗したらショックを受けるかもしれないのでずっと手助けをするか、失敗してもまた立ち直れるように普段からいろいろと経験を積ませるか…寒いと風邪を引くかもしれないので暖かい部屋でずっと遊ばせるか、しっかり外で遊んで寒さに馴染んでおくか…身近なところでもいろいろな場面が想定できます。

ところで、アカギツネは基本的には家族を中心とした群れで生活しています。

子どもが小さい頃はたっぷり遊んであげて子どものために餌も狩りに行きます。しかし、その甘やかし期間は3ヶ月までの期間限定であり、その後は子どもの自立のために餌を持ってくるのをやめてしまうのです。しかし、徹底的に突き放してしまうのではなく、近くに餌を隠しておき、子どもが匂いで捜せるように訓練をするのだそうです。近い将来、子どもが自分の力で生きていけるように、ある程度まで成長してくれば餌を与えるのではなくその取り方を教えるように育て方を変更するのです。僕たちもいつまでもモノを与えたり、何でも世話を焼いたりしてしまう親ではなく、やり方や考え方を教えて、子どもの後方から見守っている親へと移行すべき時期がきっとあるように思います。

## ささやかな SOS を 察知して

幼い子どもたちは自分の気持ちや状況を言葉でうまく説明できない上に、心の不安定な状態を処理する能力も未熟です。そこで、嫌だとかつらいとかいう気持ちを身体や行動で表現することが多くなります。外来でもお母さん方から次のようなお話を聞くことがあります。

「妹ができたら急に言うことを聞かなくなって…。これまでは素直ないい子だったんです。」

「最近いつも爪を噛んでいるんですけど…。」

「やたらベタベタと甘えるようになってしまって…。どうしたんでしょうか。」

「最近なんだか怒りっぽくなったように思うんです。」

「元気そうに見えるのに、毎日のようにお腹や頭が痛いと言うんですが…。」

実はいずれも子どもの心がピンチに陥っているサインの可能性もあります。もちろん、頭痛や腹痛が単にからだの病気の症状ということも多いのですが、子どもが精神的に切羽詰まった状態のこともあります。こういう場合、僕たち大人は「お兄ちゃん(お姉ちゃん)なんだから我慢しなさい」「もっとしっかりしなきゃ」「いつまでも甘えないの」「がんばれ」と叱ったり激励したりするのが常ですが、たいてい状況は悪くなる一方ではないでしょうか。いずれも子どもが身体や行動で表現している心の SOS.いわゆるさびしいサイン、ストレスサインなのかもしれませんが、大人がそのサインを見ていない、あるいは見てはいるのに子どもの心の問題としては見えていないことが多いのです。

けれど、弟や妹ができたら、急に不安になったりさびしく感じるのは当然です。

子どもなりに努力してきたのに、どうしようもなくなったからこそ反発したり過度に甘えたり、感情的になったりするのは。気にするな、しっかりしろと言われても、もう頑張りきれなくて頭痛や腹痛などの症状が出ているのです。そんな時に叱ったり怒鳴ったり、口うるさく言っても何の解決にもなりません。むしろ子どもにすれば、大好きなお母さんや信頼しているお父さんの感情的な顔や口調から大きな衝撃を受けることもあります。「しっかり」「がんばれ」と繰り返し言われても戸惑うばかりで、どうしていいか分からない不安だけが大きくなってしまいます。子どもが無意識にストレスサインを出しているのにもかかわらず、大人にそれを受け取るアンテナが不足しているのです。

僕たち親はとかく子どもの言動、成績など、目に見えるもので判断してしまいがちです。しかし、目に見えるものよりも見えないもの、現実の行動の内容や結果よりも行動に隠されている気持ちや理由を考えることによって、子どもの心に気づいてあげることが大切です。子どものサインや行動の理由が少しでも見えたら、どうすることが一番いいのかがおのずとわかります。もしかしたら子どもからのSOSなのかも…と察知し、その気持ちや立場を理解しようと努力をすること、これが唯一の解決法です。親が気づけば、道は自然に開けていくものです。



医療法人社団裕心会 あきた小児科クリニック  
理事長秋田裕司著 「子育てかるた」より

## みすゞさんコンサートとバリ舞踊

令和6年2月4日(日) 入場無料

開園14時(13:30開場)

まなびCAN3階(高松市生涯学習センター)

高松市片原町11-1 TEL 087-811-6222



お問い合わせ・申し込み

高松第二保育園 TEL 087-821-5241 Fax 087-851-0857